

私の提言

井原健雄さん 北九州市立大学大学院教授 **正岡利朗さん** 高松大学経営学部教授

香川県交通安全教育推進会議＝「交通事故多発県からの脱却」「他県に誇れる交通マナーの向上」を図ることを目的に、各種教育プログラムの実施、教材の作成、人材育成、県民への情報発信など多岐に渡って活動。県警に事務局を置き、県の関係部門6課、教育委員会事務局4課、国土交通省関係2機関、関係団体7機関、高松市のほか、県総務部国際課と県PTA連絡協議会がオブザーバーを務める。井原健雄さん、正岡利朗さんは、推進会議の評価専門委員メンバー。

異なる組織が連携し、体系的な交通安全教育を推進



北九州市立大学大学院教授・井原健雄さん

毎年活動テーマを絞り 多彩なプログラムを実施
 こうした提言を具体化するための組織として、02年に推進会議は発足した。「中学生・高校生の自転車」から「若者・成人の四輪車」「高齢者・幼児」「高齢歩行者」「高齢運転者」「自転車法規」と、毎年の活動テーマを絞り込み、各組織がお互いの活動を尊重しながら連携したプログラムを実施す

毎年活動テーマを絞り 多彩なプログラムを実施

香川県では、県内で交通安全教育の実務に携わる機関・団体により組織された「香川県交通安全教育推進会議」(以下、推進会議)が、交通安全教育の普及に取り組んでいる。異なる組織が垣根を越えて連携し、他県からの注目度も高い。

推進会議は、01年に行われた「体系的交通安全教育の効果的推進に関する調査研究」が母体となっている。この研究会を提唱し、その活動を行った井原健雄さんは、交通安全教育で成果を出すには、「各機関が行っている教育内容の再検討、危険予測と回避、他の交通参加者を思いやることに重点を置いた教材の作成、学校や職場などの現場で教えらるる指導者の養成、各教育機関の連携強化と県民への参加呼びかけが必要」と提言した。

香川県では、県内で交通安全教育の実務に携わる機関・団体により組織された「香川県交通安全教育推進会議」(以下、推進会議)が、交通安全教育の普及に取り組んでいる。異なる組織が垣根を越えて連携し、他県からの注目度も高い。



高松大学経営学部教授・正岡利朗さん

る。例えば「若者・成人の四輪車」では、高松大学と自動車教習所、安全運転管理者協議会などが連携して危険予測を学ぶ「コメンタリードライブ」教育を実施した。「大学生、高校生、地域住民が参加する交通安全の公開セミナー」を大学で開いたり、老人クラブと連携して高齢者交通指導員の講習会を実施したりと、相互乗り入れは進んできた」と、正岡利朗さん。

毎年作成する危険予測の動画教材も先進的な取り組みだ。「現在普及している交通安全教育の教材は、ほとんどが静止画像かビデオ。私たちはパソコンで再生できるCD-ROMで作成し、県下の全小・中学校及び高校などの学校現場を中心に無償で配布、さらに多くのの人に見てもらえるよう、コピーも自由としています」(正岡さん)。

※コメンタリードライブは、ドライバーが運転中に目にしたシーンやそれに対応する自らの運転行動について言葉にする運転トレーニング法。危険に対する自分の運転技術や運転行動を認識することができるというもの。



作成した動画教材「知っておこう自転車のルール」。この他にも5つの動画教材を作成し、配布している

10年目を迎え、活動は新たな場面に入る。01年と07年で県内の交差点事故を比較すると、死者数が66人から41人と減少するなど事故も着実に減少し、同時に、交通マナーの向上も見られるという。「土台づくりは確かにできた。しかし、教育は、粘り強く継続していくことが大切です」(井原さん)。



香川県交通安全教育推進会議は、第29回(平成19年度)国際交通安全学会賞 業績部門を受賞した

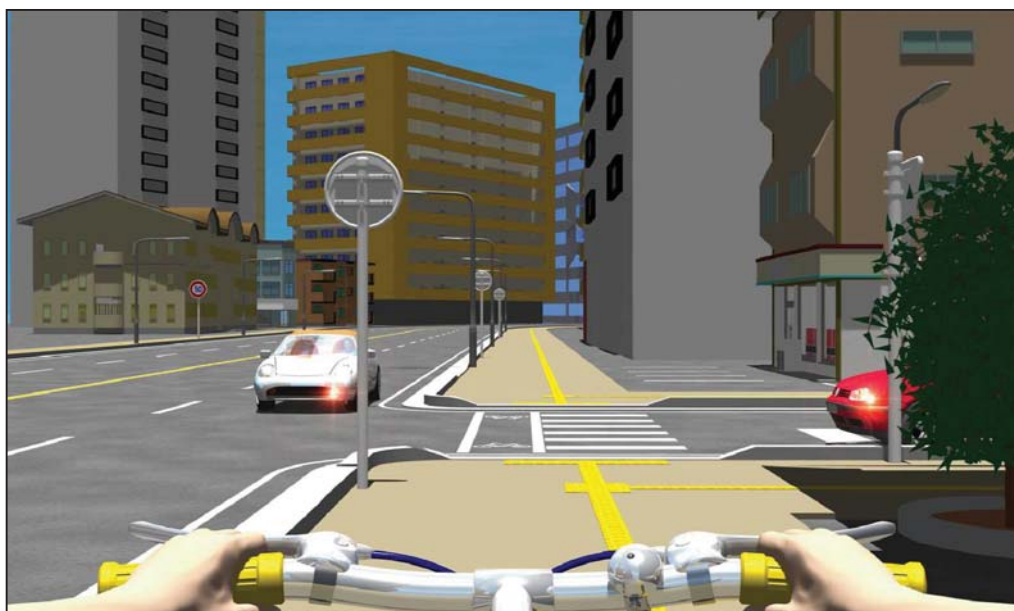
当面の課題は県民へのPR。ホームページやマスコミを介して情報伝達を強化したいという。また、現場での指導者養成も課題の一つだ。「現場担当者の負担軽減を図るために、教材をパッケージ化して提供したらどうか」(正岡さん)。「子どもが先生となってお年寄りに教える、県内在住の外国人による効果的な海外事例の紹介を行うなど、切り口を変えて伝えていくことも効果的」(井原さん)とアイデアを絞る。

10年続いた活動、今後も粘り強く

危険予測トレーニング(KYT) — 危険感受性を育てる

第③回 信号のない横断歩道を渡る(自転車)

交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を育てるための題材をご提供いたします。今回は高齢者の方に、自転車運転中の危険を考えてもらうためのKYTです。自転車利用者を対象にしたグループ教育の学習の中で活用してください。



自転車で、信号のない横断帯を渡ろうとしています

- ・あなたは自転車で横断帯にさしかかっています。
- ・右前方のクルマは止まっています、まだ動いていません。標識はありますが裏側しか見えません。
- ・左のクルマはあなたが渡ろうとする横断帯の方に曲がる合図を出しています。

あなたはどこに注意しますか？
 イラストの中のその個所に丸印を書き込んでください。

制限時間
 1分

活用方法

- ① 少人数のグループをつくりま。
- ② 「交通場面のイラスト」を見ながら、意見を出し合います。
- ③ その後、「解説※」を参考にして、どんなことに気をつけて運転すればいいか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト(カラー・A4版)」は下記SJのホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード(無料)できます。

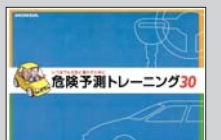
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>

【使用上の注意】

- 営利目的での利用はおやめください。
- 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
- その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業(株) 安全運転普及本部
 TEL: 03 (5412) 1736

今回のKYTの題材は、Hondaの高齢ドライバー用プログラム「いつまでも元気に暮らすために危険予測トレーニング30」から抜粋しています。詳細については以下ホームページ参照。



<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/senior-training/>